云、花族ト云、申ニ及ヌ所ナレドモ、竹園攝家ノ外ニ、未准后ノ宣旨ヲ被下タル例ナシ、平相國清盛入道、出家ノ後、准后ノ宣旨ヲ蒙リタリシハ、皇后ノ父タルノミニ非ズ、安德天皇ノ外祖タリ、又忠盛ガ子トハ名付ナガラ、正ク白河院ノ御子ナリシカバ、花族モ榮達モ今ノ例ニハ引ガタシ、

〔常樂記〕文和三年四月十七日、北畠入道一品准后覺空於紀州賀名生圓寂、

〔准后准三宮考〕武臣准后の始

武臣

太政大臣從一位平清盛入道淨海

此人は、八十一代安德天皇の御外祖なりければ、安德御卽位ありし治承四年二月、淨海夫婦共に准三后を宣旨せらる、是武臣准三后の始めなるべし、されど逍遙院殿の御記には、鹿苑院足利義滿○毎事の樣、攝家昇進の如くなる故に、始めて此宣を蒙らしめ玉ひしよしを注せられたり、心得られず、但淨海のことは、其例の始のよからぬ事なれば、斯くの玉ひしにや、若くは又武家の代となりて、准三后の始、鹿苑院殿に起れりとのことにや、

〔公卿補任後小松〕永德三年癸亥

左大臣從一位源義滿二十六、右大將、征夷大將軍（中略）六月廿六日、宣准三宮之由宣下、

〔公卿補任後花園〕寛正五年甲申

左大臣從一位源義政（中略）十一月廿八日准后宣下

攝關大臣室家

〔榮花物語十二玉の村菊〕同じ月○寛仁元年三月の十七日、大殿○藤原道長攝政を內大臣殿○藤原頼通に讓りきこえさせ給、○中略われはたゞいま御つかさもなき定○定原作みや、據一本改、にておはしますなれど、御くらゐはとの○藤原道長もうへ○道長妻倫子も准三宮におばしませば、○長和五年六月、准三宮、世にめでたき御ありさまどもなり、とのゝ御まへの御さいはひは、さらにもきこえさせぬに、うへのおまへかく后とひとしくて、よろづのつかさかうぶりをえさせ給などして、としごろのにようばうはみなかうぶりえあ